

大田区議会議員（無所属）

荒木ひでき 議会 報告



電話一本
「走る何でも相談室」

19

号外 その

平成15（2003）年3月7日発行

- ◆山王事務所（安楽堂）
山王3-1-13 TEL 03(3771)4719
- ◆鶴の木事務所
鶴の木2-16-7 FAX 03(3771)7613
- ◆http://www.youmay.co.jp/araki/
- ◆mail : arakihideki@livedoor.com

討議資料

「あなたの提言」講会に届けます・3

～あなたも提言してみませんか～

平成15年2月27日 第一回定例会 一般質問

- 生きるとは？ 区民の心の叫びを議場に！
～高齢者問題、行政の心を質す～
- タバコポイ捨て条例の制定は？
～環境美化、子供の安全の観点からも～
- 防災—いざという時の行政の対応—について
～避難所の確保、連絡体制、防災連絡網の確立～

生きるとは？ 区民の心の叫びを議場に！

荒木ひでき 1月初め、私は家出をした。妻の介護に疲れ、思い余った末の行動であった。妻は11年前、脳出血で倒れ、自分では何一つできない車いす生活者である。家事と介護の生活を私一人で10年間支えてきた。ショートステイを申し込んでも3ヶ月前の予約で満杯。デイサービスは週2回受け、ヘルパーの派遣は2時間ずつ週3回受けていたが、私の負担減にはつながらない。施設の入所を希望したが、それも何年先になるか。私たちに子供はない。頼りは行政なのだが、人所希望者が何十万人という現状では絶望的である。もうどうにもならない気持ちから突發的に、福祉センターとケアマネジャーに書置き、電話して家を出た。「保護者遺棄で警察ざたになる」と言われたが、「警察ざたにしてくれ」と答えた。妻は緊急措置として近くの病院に入院し、現在も好意的に預かってもらっている。妻が自殺をほのめかしているという知らせで、1週間後、都営アパートの家に帰った。私のとった行動を私は後悔していない。妻には申し訳ない気持ちだが、今まで何度も妻を殺して自殺しようと思ったことか。それが出来ない末の行動だったことを、妻は理解している。妻の行き先はいまだに決まらない。少子高齢社会の日本にとって一番大切なことは、福祉行政の充実だと思うのだが、今の政治家や官僚にそれを望むのは無理な話かも知れない。

（東京都大田区80歳）



自分の目で見て、 自分の言葉で喋る

この文章は2月17日付朝日新聞朝刊に掲載された「妻介護に疲れ家出をしたが」と題する投書です。私はこの投書を読んで今までとは少し違う衝撃を受けました。今までのような政治的な怒りとか不正義に対する憤りとかではなく、人間の命の根っここの部分「生きる事」に対する衝撃です。

私は区議会議員として8年、様々な悲惨な事例を見てきました。周囲に黙殺され声もあげられずに必死に生きている高齢者の方。一人暮らしで長く患うなど大変な苦労をされている方も数多くおられます。このような高齢者の方々にお話を伺ったところ「戦争中も戦後も生きていくために苦労をしたし、人に話せないような嫌な思いもしてきた。それでも明日は何とかなるという希望があった。未来は明るかった。だから生きてこられたんだ。だけでも今は明日の夢も希望もない。真っ暗で、今ほど辛い時はない。ただ死ぬのを待っているだけです。」とまでおっしゃる方がいらっしゃいました。この言葉が今でも私の耳に残って離れないのです。

戦争体験、戦後の復興体験を通じ一人一人が小説の主人公になれるほどの、私には想像もつかないような人生体験をされ、現在の繁栄の礎を築いてこられた方々にこんな思いをさせておいて良いのだろうか、この現状を何とかするのが我々の役目であり使命なのではないかと思うのであります。

なおこの投書の反響は全国的に大きく、同紙22日付朝刊には「一人頑張らず周りに甘えて」(北区)「老老介護の悲劇防いで」(札幌市)とそれぞれ心温まる激励の投書が掲載されておりました。朝日新聞本社に直接訪ねたところ、反響の投書はこの2通のみではなく数十通を数えたそうです。全国の目も大田区に注目しています。区民の貴重な意見を真正面から受止めて頂きたいと考えます。質問します。

- ① 行政としてこの記事を読んだ感想をお聞かせ下さい。特に区長にお答えをお願いします。
- ② この方はたまたま新聞への投書という形で、自分の置かれている現状を申し述べる事が出来ましたが、私が調べたところ、もっと悲惨な例もある。声もあげられずに必死に生きている高齢者の方々に対しての行政としての解決策を明確に答えていただきたいと思います。
- ③ 『心あたたかく、対応あたたかく、頭はクールに』が区職員の大原則であると私は考えます。この場合、「行政の側の心」に問題があったのではないかと考えるが、どうでしょうか。例えば、この方が福祉センターとケアマネージャーに電話をされた段階で、行政はどのような対応をしたのか、教えていただきたいと思います。
- ④ 特別養護老人ホーム入所の現状と、行政の目の届かないどうにもならない高齢者の方に対して、大田区としての新たな「措置」制度の導入などをどのように考えるのか、答えていただきたいと思います。

区長 新聞の投書の問題でございますが、介護保険制度の改定のための実態調査を行いましたところ、現在在宅介護世帯で特別養護老人ホームに入所を希望されている方の25%が高齢世帯として暮らしている方、つまり約400人の方が老老介護の状態となっていると推計されます。元気な人で80才を超えた方が60才の方を見ている状態でございます。とても深刻な状況だと認識を持っています。高齢者自体が孤立化して近所とのお付き合いがなくなってきた。そういう状況もございますので、私どもは地域の中で活躍いただく民生委員またはご近隣の皆様方の協力を得ながら老老介護の状態を常に適切に把握し対応を考えてまいりたい。職員もこの問題については誠心誠意解決のために取り組んでいくようになっていきたいと考えている。

保険福祉部長 声もあげられず必死に生きている高齢者の方々に対して解決策をということでございますが、高齢者の方々が様々な行政サービスの存在さえ知らないということがないように、特に一人暮らしの方々を対象にしまして、民生委員さんを中心とする訪問調査を実施している所であります。その際、行政サービスを紹介するとともに支援を必要とする方を発見したときには、区に連絡を頂き適切な対応を図っております。また地域の団体介護支援センターにおきましても実態把握を行っておりまして、必要な方につきましては見回りを含めた支援を行っております。

行政側の心の問題というご指摘でございますが、職員の対応につきましては、常に区民の方の立場に立ってその思いを適切に受けとめる必要がございます。今回の事例ではその点が必ずしも十分ではなかつたのかなという思いもいたしております。これを教訓に今後いっそう暖かい対応に努めてまいりたいと考えております。

また新聞投書の件の事案での対応につきましては、個別の事案でありますので具体的な答えは差し控えさせて頂きますが、出来る限りの対応をしたということを聞いております。

特養ホームの措置の問題でございますが、これはご承知かもしませんが、特別養護老人ホームにつきましては申込みによる輸送のみならず、やむを得ない事情がある場合は、従前とおり区が措置をするという制度がすでにございます。これを活用して今年度3人の方を措置で入所している実態がございます。

タバコ吸殻ポイ捨て条例の制定は？

荒木ひでき 私は、年2回「明るい社会づくり運動の会」の方々と共に、早朝、毎回30人位のグループで旧区役所から池上通りを大森駅に向かってタバコの吸殻清掃を行っています。ゴミバサミで一つ一つ丁寧に拾って行くと、あまりに膨大なので何本になるのかは数えた事がありませんが、45リットルのゴミ袋2個分位の驚く程の量になります。大田区では平成9年3月14日「清潔で美しい大田区をつくる条例」を作り毎年6月には駅頭キャンペーンも行っているが、ほとんどなんの成果も上がっていないし、行政としての責任を果たしているとはとても言えないと考えます。携帯用吸殻入れを配ったり、バス停等に吸殻入れを設置するのはかえって歩行喫煙を助長するものであると言う意見もあります。大人が歩きタバコをして手を下ろすとちょうど子供の顔の位置になります。又火災の大きな原因にもなります。まず、この点についてお答えをいただきたいと思います。

罰則規程付きの条例が千代田区ではすでに施行されています。杉並区、品川区では今年の第1回定例議会で上程するという事です。大田区でも本年2月14日に14第82号「歩きたばこ、たばこポイ捨てに対する罰則条例の制度を求める陳情」が採択されましたが、行政としての現在の対応状況と今後の見解をお答えいただきたいと思います。

都市基盤整備部長 每年6月に行っている駅頭キャンペーンによる効果についてですが、区では現在クリーン大田強化月間等を通じまして広く区民の方々に対して、タバコのポイ捨て禁止を始めとする環境美化の呼びかけを行っております。しかし、現在必ずしも十分な効果があがっていないのが実情であります。

携帯用吸殻入れにつきましてはご指摘の趣旨をふまえ、平成12年より配布を中止しております。

罰則付きの歩きタバコ禁止条例でございますが、現在の条例では、道路、公園、広場等公共の場所でのポイ捨てタバコを禁止しておりますが、罰則につきましては特段の定めはしておりません。近年タバコの他者への迷惑、あるいは健康被害、タバコのポイ捨てでの環境美化への悪影響などが数多く指摘されておりますので、今後環境美化審議会や区民各層の意見を伺いながら検討を行ってまいりたい。

防災～いざという時の行政の対応を問う

荒木ひでき 本年1月31日（金）夜10時30分頃山王のマンションで、誠に残念ながら1人死亡という火災がありました。役所からは出張所長、前出張所長、防災課職員が深夜にもかかわらず現場に出場し、町会との連携プレーで「山王高齢者センター」を避難所として確保し、36の方に避難していただき、「一番寒い時期での災害対応」として住民の皆様に大変喜んで頂いております。その後の対応も含めて評価されるべきであると私は考えます。

①住宅火災。特にマンション火災のような多くの被災者が出了した場合、特に金曜日の夜に起きた場合、行政への連絡体制、初期対応として避難所の設定、区の施設はどこが使えて、どこが使えないのか、鍵は誰が持っているのか。行政と町会との一般火災時の防災連絡網は構築されているのか。即ち町会の誰が行政の誰に、連絡をするのか。避難場所はどこか。また今回の火災時の避難で一番問題になったのは、火事場の大混乱の中、「山王高齢者センター」の鍵は誰が持っているのかでした。このような問題点が行政として区民にどのように周知徹底されているのかお聞きしたいと思います。

区民生活部長 夜間の住宅火災被災者の対応についてですが、火災により住宅に困窮した場合には、まずは近隣相互の助け合いを基本にお願いしております。今回のように多くの被災者が出了したときなどで、それに頼りがたい場合には区内旅館組合からの部屋の提供、プラム新田、区民センター、老人いこいの家など区の施設を提供する用意はしております。これらの手配につきましては自治会・町会長などから連絡をうけまして利用方法、鍵の所在あるいは連絡網を把握している特別出張所所長が夜間を含めて対応しております。特に山王高齢者センターを含む老人いこいの家につきましても、今回の火災をきっかけに新たに避難場所として提供することといたしました。鍵の管理者などについて特別出張所長にも周知をした所でございます。

超現場主義



電話一本！！『走る何でも相談室』

いつもバイクで走っています。
お気軽にお声をおかけ下さい。

大田区議会議員 (無所属)

平成14年度所属委員会

- ◎生活産業委員会
- ◎交通問題調査特別委員会（副委員長）
付属機関委員
- ◎消防団運営委員会
- ◎都市計画審議会

プロフィール

出身地：大田区

昭和25年1月13日生まれ

- ・若草幼稚園
- ・大田区立山王小学校 卒業
- ・大田区立大森第三中学校 卒業
- ・法政大学第二高等学校 卒業
- ・法政大学法学部法律学科 卒業
- ・平成3年 故新井将敬代議士の秘書として国政区政を猛勉強し、平成6年公設秘書、地元責任者となる
- ・平成7年4月大田区議会議員初当選
- ・平成11年3月 同 2期目当選

座右の銘：受けた恩を石にきざむ